

藤野ひろえ



日本共産党
青梅市議団

市 議 会
報 告



生活何でも
相談受付中

発行 2018年1月
連絡先090-4003-9987

～昨年12月定例議会で行った一般質問をお知らせします～

1 安心・安全な介護を



※議論の内容を損なわないよう
編集しております。

介護保険制度は、平成12年度から始まり、3年ごとに、事業計画と保険料も決定されます。発足時の65歳以上の介護保険料は、月2,875円でしたが、現在4,800円です。国は、これまで、1割の利用料の負担増や、特養ホームへの入所基準を原則要介護3以上にしたり、昨年4月からは、要支援1・2の家事援助、デイサービスを、介護保険からはずし、市町村の地域支援(総合)事業に移行させるなど制度の改悪を行ってきました。平成30年4月からの第7期の計画では、保険料の値上げはしない事や、サービスを受ける人も、提供する人も、安心で、安全な介護を求めました。

質問1 在宅の要介護高齢者を24時間支える、定期巡回・随時対応型訪問介護・看護事業は、公募しても事業者がないのはなぜか。

市長 24時間対応で、人数の確保が大変との事なので今後も事業所と協議し実施に向けて取り組みたい。

質問2 平成28年度に高齢者への配食サービスは、週3日、1食400円で、ボランティアにより行われ、月平均252人が利用している。高齢者の栄養改善や安否確認に役立っている。提供事業者は1箇所だが、利用者を増やす取り組みを検討しているか。

市長 きざみ食のメニューを増やすことなど、配食サービスの在り方について検討し、対応する。

質問3 市の総合事業の取り組み状況は。

市長 講習を受けた人が2回で94人、そのうち、82人が登録し、シルバー人材センターや、社会福祉協議会で生活サポーター支援事業を行っている。

質問4 介護給付費等準備基金を使い、次期保険料を値上げしないように求める。国に対し社会保障の改悪をしないよう要請を。

市長 低所得者対策の拡大を行う。高齢者が増えているので、給付費抑制、健康寿命をのばすよう取り組むが利用者負担、保険料値上げは止むを得ない。制度を持続させることが大事。



2 市民と市長との懇談会について

～会場を増やし、子育て世代、女性の参加促進を～

平成29年度は、6会場で行なわれました。市民の声を聞き、切実な要望に耳を傾ける姿勢を求めて質問しました。

質問1 今回の参加状況と広報周知は十分だったか

市長 市役所が12人、各市民センターは梅郷が32人、長淵が32人、小曾木が36人、新町が27人、大門が41人、合計180人。女性は15人、20代30代がゼロ、40代が7人であった。市の広報やメール、各市民センターでは、自治会に、若者にはツイッターで周知した。

質問2 各会場ごとの意見・地域の課題は。

市長 道路や交通問題、多摩川のレジャー、災害対応、ゴミ問題、公共施設、人口減少対策などであった。



質問3 アンケートには「自治会役員が多いので、一般の市民が参加できるように」「主婦や若者が参加できるように」などの意見が多い。三重県伊勢市では市内の24の小中学校区ごとに、市長との地域懇談会を実施している。平成28年度は504人の参加で女性84人、40代以下が46人参加。市でも各市民センターごとや、小中学校区ごとに開催し、期間や広報周知等、参加者を増やすよう改善を。

市長 託児サービスも実施しているが、若者の参加が少ないので、開催時間、若い人や子育て世代が参加しやすい方法を検討している。

誰もが利用できる中央図書館に

～紙コップコーヒーの持ち込み禁止を求める陳情が不採択～

河辺の中央図書館利用者から、1,800人を越える賛同署名とともに、紙コップコーヒーの持ち込み禁止を求める陳情が市議会に提出されました。日本共産党青梅市議団は何度も視察に行っていますが、館内の雑誌コーナー付近などでコーヒーの匂いがしますし、市が行った昨年度の館内アンケートでもこの匂いについて苦情が寄せられています。匂いに耐えきれなくて図書館に入れないという切実な声も寄せられている状況です。

今回の陳情は、紙コップのコーヒーを飲む場所(カフェコーナー、エントランス、3-4階のテラス)からカ

フェコーナーを除外してほしいという最小限の要求です。飲みたい方はエントランスや、テラスでということにして、市民が気持ちよく中央図書館を利用していただけのように、対応すべきと日本共産党青梅市議団は陳情に賛成しました。

★カフェコーナーとは
2階の雑誌や新聞が読めるエリアです。

★右の写真はエントランスに設置してあるカフェマシーン。



繰入金や財政支援で、値上げはやめるよう求めました (全員協議会)

～国民健康保険広域化～

2018(平成30)年度から国の制度見直しで、東京都も市と共に国保の事業者となり、財政運営を担う事になります。日本共産党青梅市議団は、都道府県化されても、大幅値上げをしない事や、国や都にも財政支援を求めました。市は「4月からの保険税について5%程度の値上げを予定しているが、国には負担割合を増やすよう、東京都にも財政支援を要請している」との事でした。



★日本共産党青梅市議団や党都議団は12月21日、東京都に国保税などの大幅値上げに反対し引き下げのため独自の財政負担等を求める申し入れを行いました。

～後期高齢者医療保険料の改定～

75歳以上が加入する制度で、2年ごとに保険料が設定されます。平成30年度からの保険料について、東京都後期高齢者医療広域連合の算定案が報告されました。前年度に比べ、3.3%増の一人当たり都の年間平均保険料額が95,492円から98,621円となる3,129円の値上げが示されました。日本共産党青梅市議団は、保険料の負担軽減のために都が独自の支援を行うことを求めました。

ケミコン跡地に大ホールなどの新複合施設構想

～児童センター(児童館)はいいけど、他施設を閉鎖しないで!～

12月議会の最終日に「東青梅1丁目地内諸事業用地等特別委員会」の中間報告がありました。福祉センターの西側にあるケミコン跡地(現在は市の駐車場)に市民会館の大ホールや福祉センター等の公共施設を集約し、民間施設も含めた新複合施設の建設が計画されています。報告では子育てに関する中心的な役割を担う総合的な機能を有する子育て支援施設を整備し、大型児童センターの設置を検

討。同時に既存の子育て支援センター等との集約化、複合化も最小限図り、東青梅市民センターの子育て広場や会議室また体育館など新複合施設に整備する方向。ホールについては稼働率を上げ、収益を高めることが出来る平土間式にしたいとの考えが示されました。

ホールはひな壇式か平土間式か
～もつとよく検討を!～